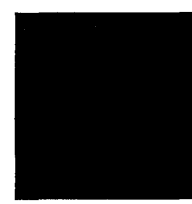


厚生労働大臣 殿

国立大学法人富山大学長
西 頭 徳



富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	80人
--------	-----
- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	241.4人	12.0人	253.4人	看護業務補助者	19人	診療エックス線技師	0人	
歯 科 医 師	10.8人	0.0人	10.8人	理学療法士	3人	臨 床 検 査	臨床検査技師	35人
薬 剤 師	27人	0.0人	27.0人	作業療法士	1人		衛生検査技師	1人
保 健 師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	3人		そ の 他	0人
助 産 師	23人	0.0人	23.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	378人	13.7人	391.7人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従業者	2人	
准 看 護 師	0人	0.0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	31人	
歯科衛生士	1人	0.0人	1.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	71人	
管理栄養士	5人	0.0人	5.0人	診療放射線技師	22人	そ の 他 の 職 員	41人	

(平成19年10月 1日現在)

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	527.8人	6.7人	534.5人
1日当たり平均外来患者数	1,071.3人	44.1人	1,115.4人
1日当たり平均調剤数	889.3 剤		

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の親血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・Open MRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するYag Laserによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	<input checked="" type="radio"/> 有・無	4人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	<input checked="" type="radio"/> 有・無	10人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧充進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・乳房温存法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と移転の検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	有・無	人
・31燐—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いた癌ワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するYagLaserによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚繊維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・X線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮線筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPF)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抹消血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
眼底三次元画像解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
ベーチェット病	352 人	モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	72 人
多発性硬化症	257 人	ウェゲナー肉芽腫症	57 人
重症筋無力症	176 人	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	206 人
全身性エリテマトーデス	1,490 人	多系統萎縮症	102 人
スモン	35 人	表皮水疱症(接合型及び栄養障害型)	0 人
再生不良性貧血	83 人	膿疱性乾癬	7 人
サルコイドーシス	299 人	広範脊柱管狭窄症	33 人
筋萎縮性側索硬化症	48 人	原発性胆汁性肝硬変	223 人
強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	650 人	重症急性膵炎	0 人
特発性血小板減少性紫斑病	150 人	特発性大腿骨頭壊死症	85 人
結節性動脈周囲炎	235 人	混合性結合組織病	226 人
潰瘍性大腸炎	568 人	原発性免疫不全症候群	44 人
大動脈炎症候群	183 人	特発性間質性肺炎	72 人
ビュルガー病	108 人	網膜色素変性症	222 人
天疱瘡	41 人	プリオン病	0 人
脊髄小脳変性症	141 人	原発性肺高血圧症	47 人
クローン病	313 人	神経線維腫症	16 人
難治性肝炎のうち劇症肝炎	8 人	亜急性硬化性全脳炎	0 人
悪性関節リウマチ	347 人	バット・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
パーキンソン病関連疾患	803 人	特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0 人
アミロイドーシス	71 人	ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病含む)	4 人
後縦靭帯骨化症	235 人	副腎白質ジストロフィー	0 人
ハンチントン病	0 人		

(注)「取扱い患者数」欄は、前年度の年間実患者数を記入すること。

8,009 人

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或は臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1年間に55回開催
剖検の状況	剖検症例数 58例 剖検率 20.9%

(様式11-A)

高度の医療技術の開発及び評価の実績 (平成18年度)

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	インスリン作用の分子生物学的検討	石木 学	第1内科	2,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金
2	植え込み型突然死防止装置の開発:呼吸統制による心不全治療	井上 博	第2内科	4,000千円	補 厚生労働省科学研究費補助金
3	無症候性Brugada症候群の予後に関する研究(多施設共同継続研究)	井上 博	第2内科	900千円	補 国立循環器センター循環器病研究委託事業
4	交感神経抑制と心不全:神経終末機能と細胞間隙ノルエピネフリン動態からの検討	井上 博	第2内科	1,300千円	補 文部科学省科学研究費補助金
5	芍薬甘草湯の腸管運動抑制効果に関する検討(ラット腸管筋電図のワイヤレス・リアルタイム観察)	藤浪 斗	第3内科	500千円	平成18年度教育研究特別経費(学長裁量費)
6	遷移金属ナノクラスターを用いた炎症性皮膚疾患の治療	清水忠道	皮膚科	2,300千円	補 科学研究費(萌芽研究)
7	東洋の知に立脚した個の医療の創成	清水忠道	皮膚科	2,200千円	補 研究拠点形成費(COE)
8	東アジアにおける先天性免疫不全症の診断システムの構築と比較研究	金兼弘和	小児科	2,500千円	補 文部科学省科学研究費補助金基盤C
9	心筋緻密化障害の遺伝子解析	市田落子	小児科	800千円	補 文部科学省科学研究費補助金基盤C
10	脳画像解析と生物学的指標を用いた精神疾患の診断と治療効果の判定への応用に関する研究	鈴木道雄	神経精神科	1,200千円	厚生労働省精神・神経疾患研究委託費
11	形態と機能画像を用いた統合失調症の客観的診断技術に関する研究	川崎康弘	神経精神科	1,000千円	日本学術振興会科学研究費補助金
12	認知症の周辺症状に対する多価不飽和脂肪酸の生物学的マーカーとしての有用性	上原 隆	神経精神科	1,500千円	日本学術振興会科学研究費補助金
13	肝障害に対する免疫療法と、脾臓切除に	塚田一博	第2外科	2,200千円	補 文部科学省科学研究費補助金
14	無頸動脈狭窄症に対する内科治療と外科治療(GEA/CAS)の無作為臨床試験	遠藤俊郎	脳神経外科	800千円	補 文部科学省科学研究費補助金
15	本邦における硬膜動静脈瘻の治療の現状調査と今後の課題	桑山直也	脳神経外科	4,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金
16	頸動脈頭蓋内動脈における石灰化の評価	遠藤俊郎	脳神経外科	923千円	補 済生会富山病院
17	二分脊椎の発生病態と予防及び総合医療に関する研究	遠藤俊郎	脳神経外科	700千円	精神・神経疾患研究委託費
18	間葉系細胞分化制御と関節内移注による生物学的関節再建	木村友厚	整形外科	3,900千円	補 文部科学省科学研究費補助金
19	腰部脊柱管狭窄症に対する遺伝子治療の開発	金森昌彦	整形外科	1,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金

(様式 1 1-A)

高度の医療技術の開発及び評価の実績 (平成 1 8 年度)

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
20	椎間板疾患感受性遺伝子CILPの機能解明に立脚したトランスジェニックマウスの解析	関 庄二	整形外科	8,300千円	補 文部科学省科学研究費補助金
21	RNAi法を利用した変性促進遺伝子を抑制する椎間板細胞移植治療法の開発	川口善治	整形外科	800千円	補 文部科学省科学研究費補助金
22	人工膝関節置換術後の膝関節動態と膝蓋腱内応力の解析	下条竜一	整形外科	1,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金
23	転写因子ATBF1とZF4による筋分化再生誘導に関する研究	野上重治	整形外科	1,700千円	補 文部科学省科学研究費補助金
24	抗リウマチ治療による軟骨破壊制御の基礎的、臨床的評価	木村友厚	整形外科	1,000千円	補 厚生労働科学研究費補助金
25	脊柱靭帯骨化症に対する調査研究	木村友厚	整形外科	800千円	補 厚生労働科学研究費補助金
26	生殖免疫と腫瘍免疫の対比-妊娠維持機構からみた腫瘍免疫学への新たな提言-	斎藤 滋	産科婦人科	16,270千円	補 科学研究費(基盤研究B)
27	炎症からみた早産、妊娠高血圧症候群の新たな治療戦略	塩崎有宏	産科婦人科	43,000千円	補 科学研究費(基盤研究C)
28	胎児炎症反応症候群(FIRS)の制御に向けた基礎的・臨床研究	斎藤 滋 (研究分担者)(代表: 大阪母子保健総合医療センター 柳原 格)	産科婦人科	2,100千円	補 成育医療研究委託費
29	膀胱癌に対する内視鏡下超音波遺伝子治療への基礎的研究	野崎哲夫	泌尿器科	1,000千円	補 文部科学省科学研究費補助金
30	細胞内活性酸素増幅法による口腔癌細胞死の増強	和田重人	歯科口腔外科	1,000千円	補 文部科学省科学研究費
31	脳梗塞急性期から開始する筋萎縮阻止薬療法が慢性期運動機能に与える影響に関する研究	田中耕太郎	神経内科	800千円	補 厚生労働科学研究費補助金
32	炎症関連転写因子活性化測定法開発による全身性炎症反応症候群の迅速診断	北島勲	検査部	1,500千円	補 文部科学省科学研究費補助金
33	分子病態検査学的手法による漢方医学診断(証)の解明	仁井見英樹	検査部	1,600千円	補 文部科学省科学研究費補助金
34	精神遅滞関連遺伝子ATRX変異マウスを用いた記憶・学習障害と遺伝子制御異常の解明	北島勲	検査部	4,000千円	補 文部科学省戦略的創造事業
35	漢方「脈診」診断法のカオス解析と科学化	北島勲	検査部	3,636千円	補 科学技術振興機構(JST)科学技術振興調整費

(様式 11-A)

高度の医療技術の開発及び評価の実績 (平成 18 年度)

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
36	cDNAマイクロアレイを用いた関節リウマチにおける「証」の検証	北島勲	検査部	2,200千円	補 文部科学省科学研究研究拠点形成費
37	real-time PCR法を用いた迅速な敗血症起因菌同定システムの構築に関する研究	仁井見英樹	検査部	2,000千円	補 科学技術振興機構 (JST) シーズ発掘試験研究費

計37

- (注) 1 国, 地方公共団体又は公益法人等から補助金の交付又は委託を受け行った研究の
2 「研究者氏名」欄は, 1つの研究について研究者が複数いる場合には主たる研究
3 「補助元又は委託元」欄は, 補助の場合には「補」に, 委託の場合には「委」

(様式 11-B)

2 論文発表の実績 (平成18年度)

	雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
1	Heart 92:201-207, 2006	New quantitative methods for evaluation of dynamic changes in QT interval on 24 hour Holter ECG recordings: QT interval in idiopathic ventricular fibrillation and long QT syndrome	Sugao M, Fujiki A, Sakabe M, et al	第2内科
2	Int J Cardiol 109:59-65, 2006	D-dimer level influences thromboembolic events in patients with atrial fibrillation.	Nozawa T, Inoue H, Hirai T, et al	第2内科
3	J Clin Invest 116:1005-1015, 2006.	α 1-adrenergic receptors prevent a maladaptive cardiac response to pressure overload.	O'Connell TD, Swigart PM, Ishizaka S, et al	第2内科
4	Gastroenterology. 132:1024-38, 2007.	Pattern of transcription factor activation in Helicobacter pylori-infected Mongolian gerbils.	Kudo T	第3内科
5	Cytokine 35:270-274, 2006	Macrophage migration inhibitory factor in zinc-allergic systemic contact dermatitis	Yanagi T., Kodama K., Yoshihisa Y., Shimizu H., and Shimizu T.	皮膚科
6	Graefes Arch. Clin. Exp. Ophthalmol. 244: 825-828, 2006	Conspicuous increase of MIF in lacrimal fluid of patients with severe atopic dermatitis.	Kitaichi N., Shimizu T., Honda A., Abe R., Ohgami K., Shiratori K., Shimizu H., and Ohno S.	皮膚科
7	皮膚臨床 48: 505-510, 2006	金属アレルギーと皮膚疾患—亜鉛アレルギーの症例から学ぶ—	清水忠道	皮膚科
8	化学と生物 (今日の話) 44: 724-726, 2006	マクロファージ遊走阻止因子の新しい機能—炎症・免疫応答, 腫瘍増殖など広範な生命現象疾患に密接に関与—	1) 牧野輝彦, 清水忠道	皮膚科
9	Int J Hematol 84:60-2, 2006.	Clinical and genetic analyses of presumed Shwachman-Diamond syndrome in Japan.	Taneichi H, Kanegane H, Futatani T, Otsubo K, Nomura K, Sato Y, Hama A, Kojima S, Kohdera U, Nakano T, Hori H, Kawashima H, Inoh Y, Kamizono J, Adachi N, Osugi Y, Mizuno H, Hotta N, Yoneyama H, Nakashima E, Ikegawa S, Miyawaki T.	小児科
10	Brit J Haematol 135:362-6, 2006.	Outcome in patients with Wiskott-Aldrich syndrome following stem cell transplantation: an analysis of 57 patients in Japan.	Kobayashi R, Ariga T, Nonoyama S, Kanegane H, Tsuchiya S, Morio T, Yabe H, Nagatoshi Y, Kawa K, Tabuchi K, Tsuchiya M, Miyawaki T, Kato S.	小児科
11	Pediatr Res 60:770-4, 2006.	MxA-based recognition of viral illness in febrile children by a whole blood assay.	Nakabayashi M, Adachi Y, Itazawa T, Okabe Y, Kanegane H, Kawamura M, Tomita A, Miyawaki T.	小児科
12	Mol Genet Metab 2006; 88:71-77.	Genetic Analysis in Patients with Left Ventricular Noncompaction and Evidence for Genetic Heterogeneity.	Xing Y, Ichida F, Matsuoka T, Isobe T, Ikemoto Y, Higaki T, Tsuji T, Haneda N, Kuwabara A, Chen R, Futatani T, Tsubata S, Watanabe S, Watanabe K, Hirono K, Uese K, Miyawaki T, Bowles KR, Bowles NE, Towbin JA.	小児科
13	European Journal of Medical Genetics 2006;49:247-53.	Interstitial 1q43-q43 Deletion with Left Ventricular Noncompaction Myocardium.	Kanemoto N, Horigome H, Nakayama J, Xing Y, Ichida F, Buonadonna AL, Kanemoto K, and Gentile M.	小児科

(様式 11-B)

2 論文発表の実績 (平成18年度)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
14	J Am Coll Cardiol. 2006;48:1257-64.	Expression of Myeloid-Related Protein (MRP) 8 and MRP14 in Patients with Acute Kawasaki Disease.	Hirono K, Foell D, Xing Y, Miyagawa-Tomita S, Ye Fei, Ahlmann M, Vogl T, Futatani T, Rui C, Yu X, Watanabe K, Wanatabe S, MD, Tsubata S, Uese K, Hashimoto I, Ichida F, Nakazawa M, Roth J, and Miyawaki T.	小児科
15	Fetal Diagnosis and Therapy. 2006;22:29-32.	Reversed pulmonary artery flow in isolated noncompaction of the ventricular myocardium.	Grebe S, Ichida F, Grabitz R, Bultmann B, Heidemann S, von Kaisenberg CS.	小児科
16	Prog Neuro-Psychopharmacol & Biol Psychiatry 30: 1299-1303, 2006	Electrical brain activity and response to olanzapine in schizophrenia: A study with LORETA images of P300.	Sumiyoshi T, Higuchi Y, Kawasaki Y, et al.	神経精神科
17	Neuroimage 34: 235-242, 2007	Multivariate voxel-based morphometry successfully differentiates schizophrenia patients from healthy controls.	Kawasaki Y, Suzuki M, et al.	神経精神科
18	精神神経医学雑誌 108: 654-660, 2006	統合失調症の脳形態学的研究—病態形成との関わりと客観的診断法への応用—.	鈴木道雄, 川崎康弘, 周世昱, 高橋 努, 倉知正佳	神経精神科
19	FEBS Lett 580:3368-74, 2006	Upregulation of thromboxane synthase in human colorectal carcinoma and the cancer cell proliferation by thromboxane A2	Sakai H, Takahashi Y, Ukai M, Fujii T, Horikawa N, Minamimura T, Tabuchi Y, Morii M, Tsukada K	第二外科
20	World Journal of Gastroenterology:12: 822-824, 2006	Five-year survival following a medial pancreatectomy for an invasive ductal carcinoma from the body of the pancreas	Abe H, Kouichi T, Kazuhiro T, Masatoshi M	第二外科
21	Endoscopy:38:955-956, 2006	Abscess formation in a giant gastrointestinal stomal tumor of stomach following endoscopic biopsy	Nozawa S, Bando T, Nagata T, Tsukada K	第二外科
22	胆と膵:223-226, 2006	十二指腸乳頭部癌—治療成績に関する最新のデータ—	塚田一博, 澤田成朗, 長田拓哉	第二外科
23	Neuro Med Chir (tokyo), 46:46-50, 2006	Safe Removal of Glioblastoma Near the Anglar Gyrus by Awake Surgery Preserving Calculation Ability.	Kurimoto M.	脳神経外科
24	Interventional Neuroradiology, 12:233-240, 2006	Endovascular treatment of urgent carotid occlusion.	Tsumura K.	脳神経外科
25	J Neurosurg, 104:321-325, 2006	Transparent endoscopic sheath and rigid-rod endoscope used in endoscopic third ventriculotomy for hydrocephalus in the presence of deformed ventricular anatomy.	Hayashi N.	脳神経外科
26	臨床と研究, 83:93-98, 2006	EBMに基づく頸動脈高度狭窄病変の外科治療	遠藤俊郎	脳神経外科
27	J Hum Genet, 51:1063-1067, 2006	Association study of COL9A2 with lumbar disc disease in the Japanese population.	Seki S, Kawaguchi Y, Mori M, et al.	整形外科
28	Spine, 31:2807-2821, 2006	How does the ossification area of the posterior longitudinal ligament progress after cervical laminoplasty?	Hori T, Kawaguchi Y, Kimura T	整形外科
29	Am J Obstet Gynecol 194: 14-19, 2006.	Evaluation of effectiveness of prophylactic cerclage of a short cervix according to interleukin-8 in cervical mucus.	Sakai M., Shiozaki A., Tabata M., Sasaki Y., Yoneda S., Arai T., Katoh K., Yamakawa Y., Saito S.	産科婦人科

(様式 11-B)

2 論文発表の実績 (平成18年度)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
30 Clinical Biochemistry, 39: 1016-1021, 2006.	Plasma granulysin concentrations and preeclampsia risk.	Qui C., Saito S., Sakai M., Ogawa K., Nagata K., Williams M.A.	産科婦人科
31 J Obstet Gynaecol Res, 33: 38-44, 2007	Interleukin-8 and glucose in amniotic fluid, fetal fibronectin in vaginal secretions and preterm labor index based on clinical variables are optimal predictive markers for preterm delivery in patients with intact membranes.	Yoneda S., et al	産科婦人科
32 Int J Oral and Maxillofac. Surg. 36: 15-19, 2007	Predictive assay of neoadjuvant chemotherapy in management of oral cancer.	Tsuji T., Noguchi M., Kido Y., Kubota H., Takemura K., Nakamori K., Hiratsuka H	歯科口腔外科
33 J Neuroimmunol. 170: 141-149, 2006.	Novel autoantibodies to a voltage-gated potassium channel Kv1.4 in a severe form of myasthenia gravis.	Suzuki S., Satoh T., Yasuoka H., Hamaguchi Y., Tanaka K. et al.	神経内科
34 Internal Medicine, 45: 879-880, 2006	Psoriasis Improved by Intravenous Immunoglobulin Therapy.	Taguchi Y., Takashima S., Yoshida S., Dougu N., Inoue H., and Tanaka K	神経内科
35 Therapeutic Research, 27: 1668-1674, 2006	脳保護療法の意義.	田中耕太郎	神経内科
36 Mebio 23: 6-13, 2006	高血圧治療による脳卒中予防のエビデンス	田中耕太郎	神経内科
37 Neuron. 2006;50(2):261-275	SAD: a novel presynaptic kinase associated with synaptic vesicle and the active zone cytomatrix that regulates neurotransmitter release.	Inoue E, Mochida S, Takagi H, Higa S, Deguchi-Tawarada M, Inoue M, Yao I, Takeuchi K, Kitajima I, Setou M, Ohtsuka T, Takai Y	検査部
38 Dev. Cel. 2006;11:21-32	CLASPs attach microtubule plus ends to the cell cortex through a complex with LL5b.	Lansbergen G, Grigorievi, Ohtsuka T, Higa S, Kitajima I, et al	検査部
39 J. Com. Neurol. 2006;495(4):480-496	The active zone protein CAST is a component of conventional and ribbon synapses in mouse retina.	Deguchi-Tawarada M, Inoue E, Takao-Rikitsu E, Inoue M, Kitajima I, Ohtsuka T, Takai Y	検査部
40 Biol. Pharm. Bull. 2006;24(4):634-639	Anti-inflammatory effect of pitavastatin on NF-kB activation by TNF- α in hepatocellular carcinoma cells.	Wang J, Tokoro T, Higa S, Kitajima I	検査部
41 Oncology Reports. 2006;16(1):153-158	PEA3 cooperates with c-Jun in regulation of HER2/neu transcription.	Matsui K, Sugimori K, Motomura H, Ejiri N, Tsukada K, Kitajima I	検査部
42 J. Nutr. Sci. Vitaminol. 2006;52:261-265	The effects of eicosapentaenoic acid-fortified food on inflammatory markers in healthy subjects. A randomized, placebo-controlled, double-blind study.	Fujioka S, Hamazaki K, Itomura M, Huan M, Nishizawa H, Sawazaki S, Kitajima I, Hamazaki T	検査部
43 Hum Pathol. 2007, 38(2):276-83.	Desmoglein 3 as a Prognostic factor in Lung Cancer.	Fukuoka J., Dracheva T., Shih J., Hewitt S., Fujii T., Kishor A., Mann F., Shilo K., Franks T.J., Travis W.D., Jen J.	病理部
44 Int J Cancer. 2007, 120(11):2353-8	Inactivation of LLC1 gene in non-small cell lung cancer.	Hong KM, Yang SH, Player A, Fukuoka J, Meerzaman D, Dracheva T, Jen J.	病理部

(様式 1 1-B)

2 論文発表の実績 (平成 1 8 年度)

	雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所属部門
45	J Clin Oncol. 2006, 24:306-14.	Evaluation of two phosphorylation sites improves the prognostic significance of Akt activation in NSCLC tumors.	Tsurutani J. and Fukuoka J., Tsurutani H., Shih JH., Hewitt SM., Travis WD., Jen J., and Dennis PA.	病理部
46	Mol Cell. 2006, 24:771-783.	SNIP1 is a new candidate modifier of the transcriptional activity of c-Myc on E-box-dependent target genes.	Fujii M., Lyakh LA, Bracken CP, Fukuoka J, Hayakawa M, Tsukiyama T, Soll SJ, Harris M, Rocha S, Roche KC, Tominaga I, Jen J, Perkins ND, Lechleider RJ, Roberts AB.	病理部
47	内科専門医会誌 2006, (18)1, 7-40.	体重減少と腹腔内リンパ節腫脹を来たした一例.	丸山宗治, 安村敏, 鈴木健介, 野畑浩一, 村上 純, 篠田晃一郎, 福岡順也, 川野充弘	病理部
48	画像診断 2006, (26)4, 444-458.	Diffuse cystic pattern.	新田哲久, 高橋雅士, 村田喜代史, 福岡順也.	病理部
49	最新医学 2006, (61)11, 2238-2245.	トランスレーショナル研究技法としての組織アレイとそのがん治療への応用.	福岡順也, 坂井祐太, 熊谷直子, 川村しのぶ, 堀 隆.	病理部
50	J Biol Chem 2005 Mar;280(10):9375-89	Deletion of the PDGFR-b gene affects key fibroblast functions important for wound healing	Gao Z, Sasaoka T, Fujimori T et al.,	病理部
51	J Comp Neurol 2005 Jan;482(1):33-49.	ZFH4 protein is expressed in many neurons of developing rat brain	Nogami S, Ishii Y, Kawaguchi M et al.,	病理部

計 5 1

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 小 林 正		
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中 川 肇	放射線部長 瀬 戸 光	
	薬 剤 部 長 足 立 伊左雄	病院管理課長 堀 田 栄	
	医療サービス課長 日 合 三 雄		

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		病院事業部医療サービス課, 薬剤部, 看護部及び放射線部	カルテ等(電子カルテを含む。)の病歴資料は, 1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し, 外来カルテは最終受診日から8年以上, 入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また, エックス線写真は, 1患者1ファイル方式で, 最終使用日から8年間の保存を原則としている。 これらは, コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	杉谷地区事務部 総括管理課	/
	高度の医療の提供の実績	病院事業部 医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事業部 病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院事業部 病院管理課	
	閲覧実績	病院事業部 病院管理課	
	照会患者に対する医療提供の実績	病院事業部 医療サービス課	
	入院患者数, 外来患者数及び調剤の和を明らかにする帳簿	病院事業部 医療サービス課 及び薬剤部	

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	病院事業部 病院管理課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	病院事業部 病院管理課	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	病院事業部 病院管理課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事業部 病院管理課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	病院事業部 病院管理課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	病院事業部 病院管理課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	病院事業部 病院管理課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	病院事業部 病院管理課	

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び照会患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院管理課長 堀 田 栄
閲覧担当者氏名	病院管理課管理係長 辻 堂 清
閲覧の求めに応じる場所	病院管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○照会患者に対する医療提供の実績

紹介率	63.5%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算定根拠	A: 紹介患者の数		6,476人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		4,211人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,866人
	D: 初心患者の数		15,562人

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)(1名)・無
② 専任の院内対策を行う者の配置状況	(有)(1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専任(1)名 兼任(13)名 ・活動の主な内容 1. インシデントの収集・調査・分析、発生原因の究明及び防止対策に関すること 2. 医療安全管理に係る巡視・点検・評価に関すること 3. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関すること 4. 医療安全管理に係る教育・研修・啓発に関すること 5. 医療安全管理マニュアルに関すること 4. その他の医療の安全管理に関すること	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・指針の主な内容 1. 病院における安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理委員会その他の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための従事者に対する研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者様からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容： 1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること 2. インシデントの報告に関すること 3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること 4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること 5. 医療の質向上への取り組みに関すること 6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること 7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること 8. その他医療安全管理に関すること	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 28 回
・研修の主な内容： 1. 全職員を対象とした医療安全推進のための講演会及び事例検討会 2. 新人の医師・看護師の研修 3. 昇任看護師長及び副看護師長の研修 4. 帰局医師・復帰看護師・中途採用職員の研修	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 発生した事例報告は、各部署のRMに提出され、RMは内容確認と問題の把握・部署としての対策を検討し、医療安全管理室に提出される。GRMは事例を確認し、必要と判断すれば現場のRMに状況聴取、または現場へ確認に行く。その中で、システム改善可能なもの、広く注意喚起が必要なものを選択し、院内各会議で知らせる。また、全体で討議して対策を講じる必要のある問題は、事例検討会に提案し共通対策を立てるようにする。毎月の報告集計は、院内各会議で知らせている。適宜、関連した部署のRMを集め、WGとして活動を行ない問題解決をはかっている。 また、毎週1回の医療安全管理室ミーティングにて、3b以上のインシデントについて事例の報告、分析等を行い、毎月1回のRM会議を開催して事例の報告を行い、院内の安全管理に周知を行っている。	